

平成29年度アーチル発達障害基礎講座

発達障がい児者支援の基本

～特性や支援の在り方を再考する～

小児科嘱託医

今 公弥

本日の流れ

1. はじめに
2. 発達障がいの基本的とらえ方
3. 発達の支援と生活の支援
4. まとめ

こんな例はどう思いますか？

中学生男子13歳

診断：視覚障害（単なる近視です）

眼鏡が壊れてしまったので、先生に「近眼で見えにくいので、席を前にするか、板書の字をいつもより大きく書いていただけないでしょうか？」とお願いした。

先生の答え「普通学級にいるのだから、特別な配慮はできない。努力しなさい。」

それを聞いた保護者「何か言うと子どもに災いが起きたり、〇〇ペアレントと言われるかもしれないから、黙っておこう。授業を受けているふりをしておきなさい。」

こんなことはないでしょう？

さて、発達障がいとは？

発達障がい＝発達の障害

ではない！

発達特性+生活の障害＝発達障害

発達凸凹+適応障害＝発達障害(杉山)

発達上のくせがなかなか理解されず、適切な援助や練習の工夫がうまくなされないことで、社会生活上の困難が、本人とその周囲におきている状態

単なる「早期発見」というよりは、子育て支援を充実させ予防策の取られる中で「適正発見」するほうが望ましい(発見できなくても対応できるスキルの獲得)

ASWD(本田)を増やすことで成人相談件数の減少が期待される

AS(D)を増やすスキルを見つけ、ひろめよう(今)

「発達障がい」でなくなることが目標ではない

「発達特性」を持ちながら、
「生きていける」ことが目標である

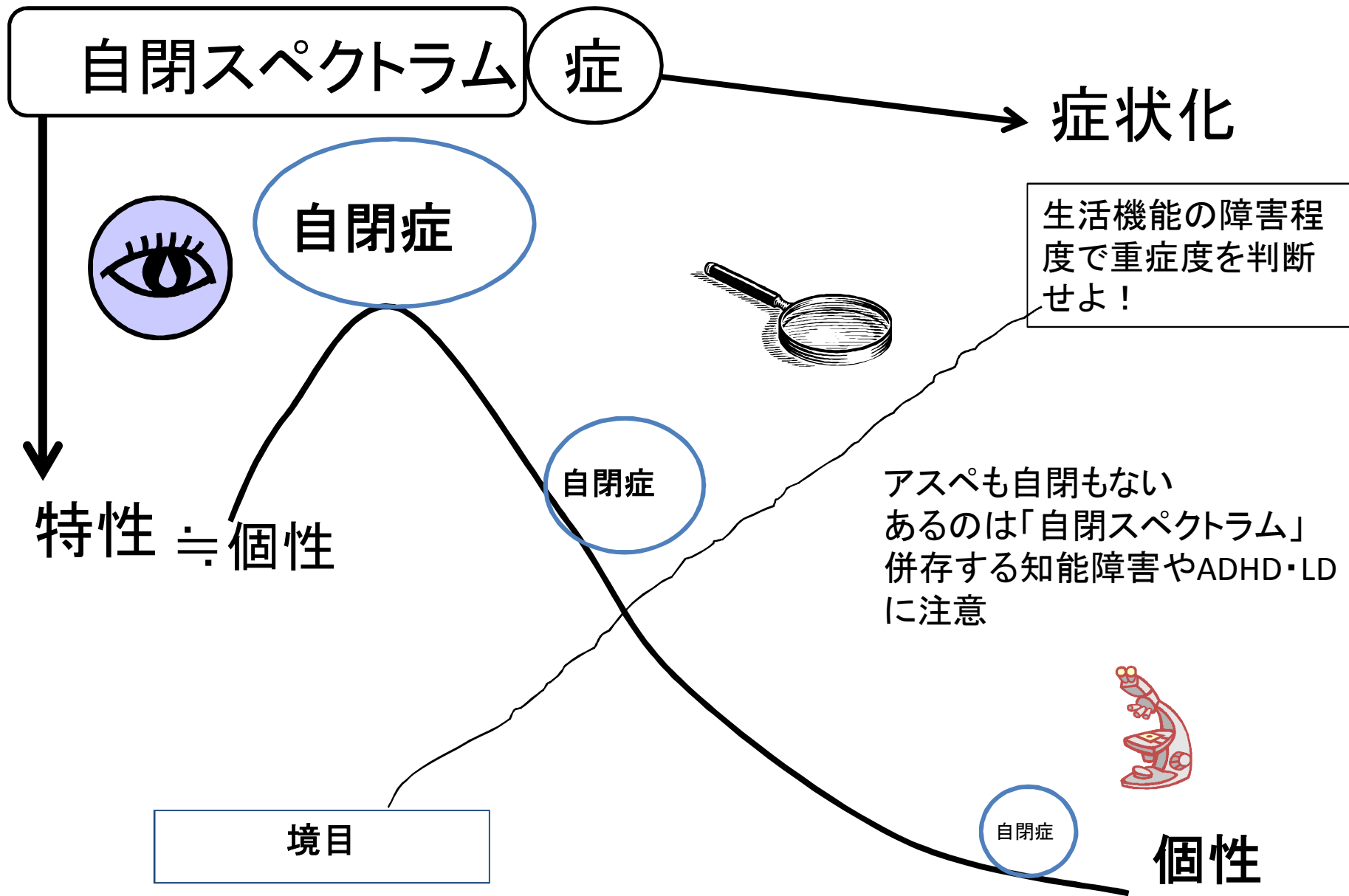
我々の仕事はそれを「支える」こと

その仕事の時に使う道具に、「知識」や「きまり:発達障害者支援法や差別解消法など」がある。道具を使うには、使用者の「きもち」や「意欲」が根底にある。

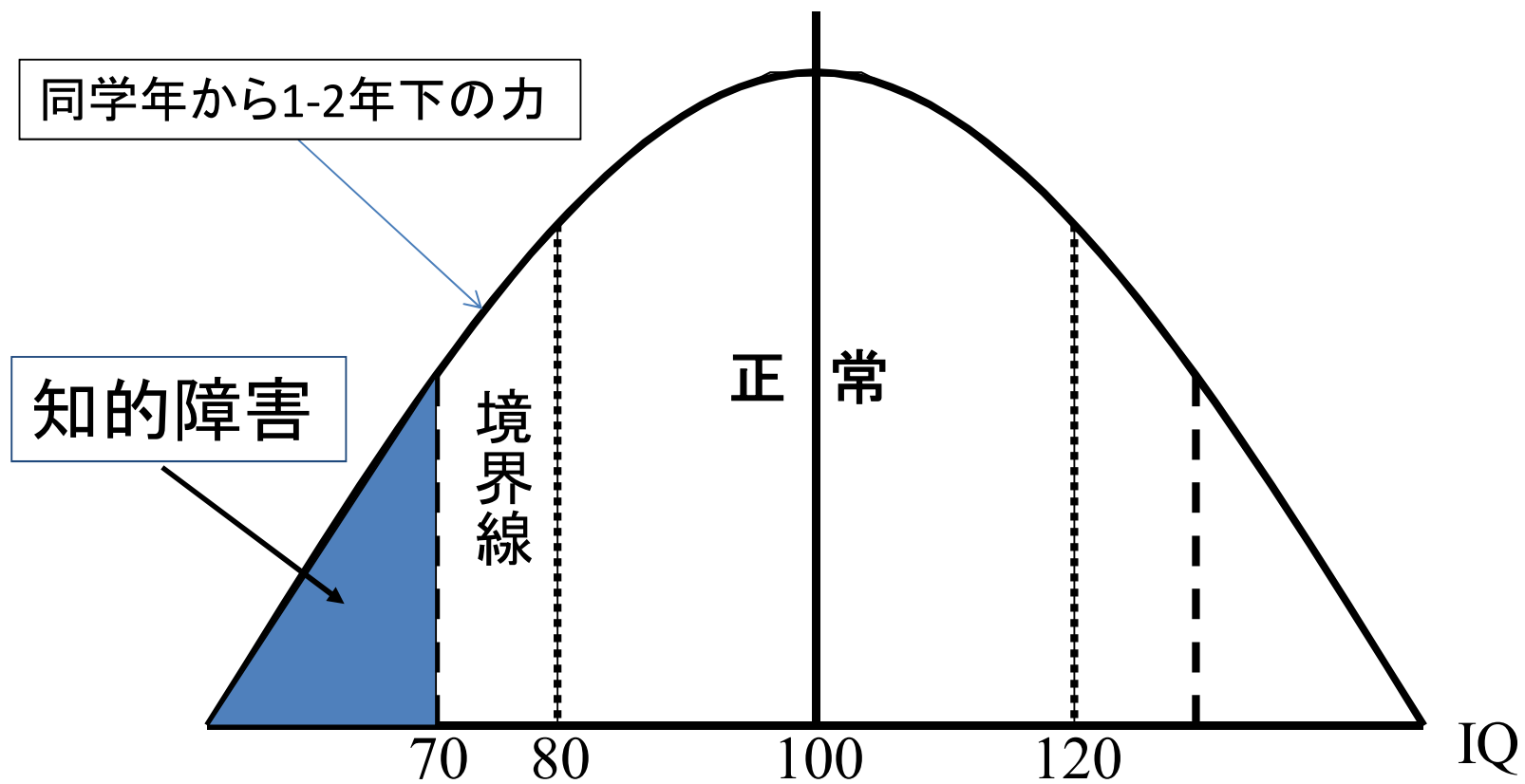
新しい診断基準 (DSM-5) (2013)

-神経発達障害-

1. 知的発達症 (ID)
2. コミュニケーション症 (CD)
3. 自閉スペクトラム症 (ASD)
4. 注意欠如/多動症 (ADHD)
5. 限局性学習症 (SLD)
6. 運動症 (MD)



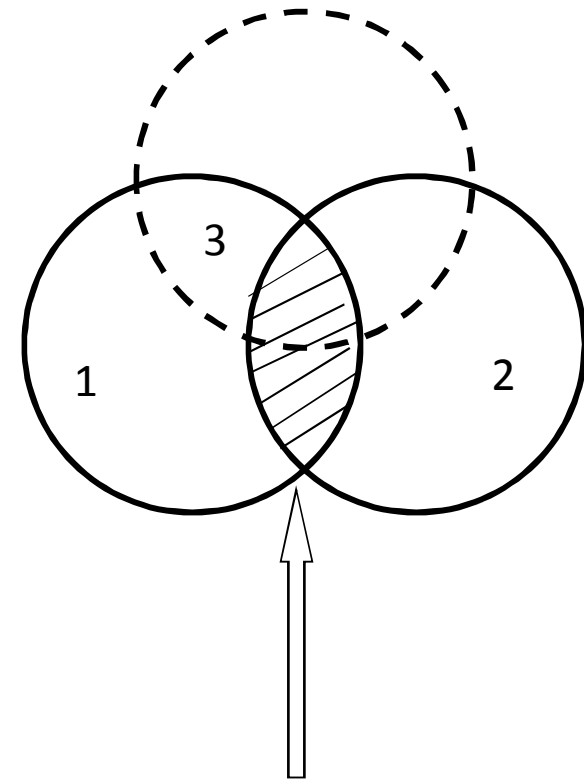
知的発達症(知能の遅れ)(ID)



自閉スペクトラム症 (ASD) の特徴

1. 対人相互交流が困難・
社会性が獲得しにくい・
相手の気持ちがわかりにくい
2. こだわりや興味の偏り・
感覚の過敏性・常同性

これらのために家庭生活や学校生活
で大きな困難がある状態



対人コミュニケーション障害と
パターンの行動の二つ組へ¹⁰

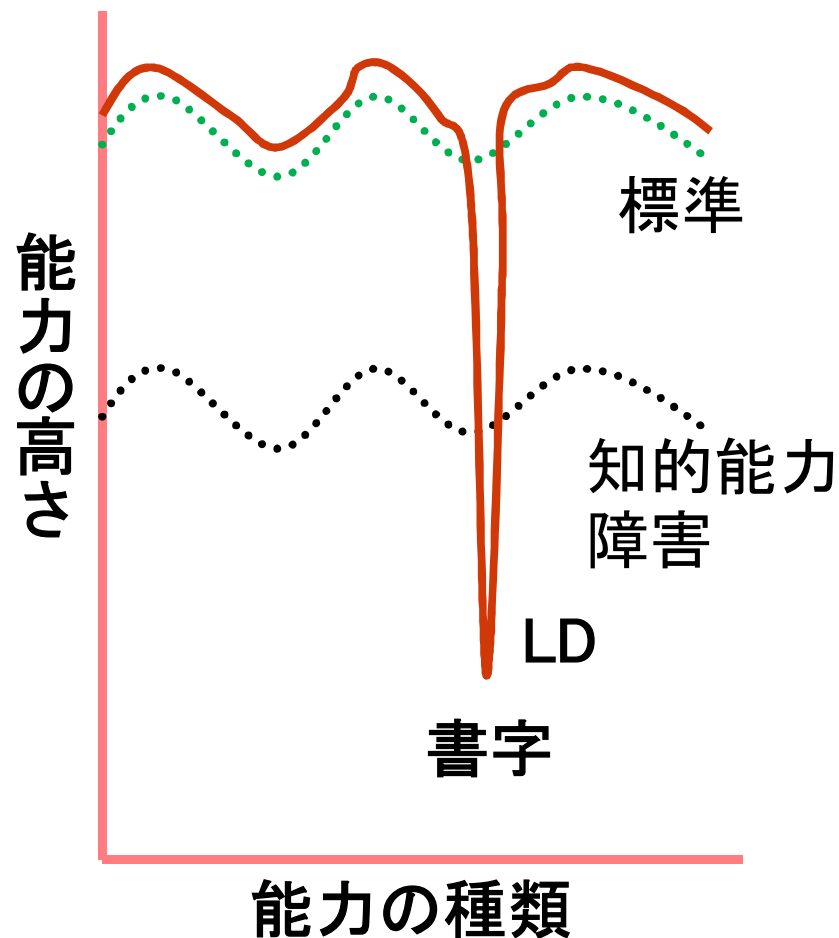
注意欠如・多動症 (ADHD) とは

- **不注意** : 忘れ物が多い・人の話を聞かない・集中力がない・ケアレスミスが多い など
- **多動性** : 落ち着きがない・動き回る・しゃべりすぎる・常に体を動かしている など
- **衝動性** : 順番が待てない・他人の邪魔をする・人の話をさえぎってしゃべる など

これらのために家庭生活や学校生活で大きな困難がある状態

限局性学習症 (SLD)・発達性協調運動症 (DCD)

- どの能力が障害されているか (読字・書字・算数・運動)
- どうすればよいか (苦手な手を訓練？得意を伸ばす？)
- 二次的問題はないか



特性を整理してみる

- A) 知的発達症 (ID) ・ ・ 知能のおくれ ・ ・ 噛み砕かないとなかなかわからない
- B) 自閉スペクトラム症 (ASD) ・ ・ 感覚のゆがみ ・ ・ 同じ言い方だとわからない
- C) 注意欠如 ・ 多動症 (ADHD) ・ ・ 行動のかたより ・ ・ ・ わかっちゃいるけどやめられない
- D) 限局性学習症 (SLD) ・ 発達性協調運動症 (DCD) ・ ・ 学習や運動の不器用 ・ ・ ・ わかっているけど、こなせない ・ 動かせない

「発達障がい」でなくなることが目標ではない

「発達特性」を持ちながら、
「生きていける」ことが目標である

我々の仕事はそれを「支える」こと

その仕事の時に使う道具に、「知識」や「きまり:発達障害者支援法や差別解消法など」がある。道具を使うには、使用者の「きもち」や「意欲」が根底にある。

診察室での発達支援と生活の支援

- 発達の特徴を明らかにし、その特徴の感じ方や考え方をつたえ、わかりやすい目標や練習法を伝える
- 生活がしやすくなるような具体的行動目標を設定し、その解決に向けて保護者が取り組めるように、協力体制を作る
- 薬物治療や療育的かわりも発達支援・生活の支援の一つ

普通のひとと違うの？

- 目の前にいるのは「障がい児・者」の前に「ひと」
- しかも「ひと」の前に、〇〇さんであり△△さん
- 〇〇さんには、彼なりの感じ方やわかりやすさがある
- △△さんには、彼女なりの得手・不得手がある
- 私たちの願いは、誰もが同じやり方で同じことができるようになることではなく、さまざまのやり方でよいから、生活がしやすくなる力を得ることではないだろうか？ ……私はそう思う

特性を利用する練習法(1)

- 「待てない」→(待てない人がする)待つ練習

例) 待合室で走り回っている子ども。「ちゃんと待ちなさい」とだけ言われている。

①「名前を呼ばれるまで、この場所に座って、本をめくっていてね」という指示に変える。

「本をめくる練習はできる」

②「名前を呼ばれるまで、あの場所で、走っていなさい」という指示なら。

「走りながら『待つ』ことができる」

「待つ」: 一定の時間をその場にあった行動をすることで費やすと読み替えてみる。

特性を利用する練習法(2)

- 「忘れっぽい」→(忘れっぽい人がする)メモを取る練習

メモを取るのは面倒。だから、しないのが『普通』面倒「でも」する。というためには、何らかの理由が必要。

「鼻の先のニンジンにつられてやる」ようになり、それをすることが癖になってしまえば、「思わずメモってる」。その時、得になっているのは本人に他ならない。(ただし、癖がつくまでやるには、長い時間が必要)(ご褒美を使うには、使い方を熟知してね)

やりたくないことを、「やるとやっぱりいいね」と思える形にしたい。

特性を利用する練習法(3)

- 「落ち着かない」→(落ち着かない人が)人の話を聞く練習

例) 走り回っている子どもに「話を聞きなさい」というと、話の内容をすらすらと答えてしまう。

- ① 走らないと聞くことができない人だと仮定すると「この場所を走りながら聞きなさい」
- ② 「人の話を聞いているように見える態度」を教え、それを練習させる(この時は態度の練習であって、聞いているかいないかは問題にしない)

「聞く」は聴覚の問題、「走る」とは別問題。そういえば勉強でも「ながら派」「専念派」がいる。→これも特性の一つ

特性を利用する練習法(4)

- 遅れを持つ自閉症者に失礼にならない顔の見方の練習

例) 思春期を迎えた自閉症の男児が若い女性の顔をじーっと見続けて、怖がられ地下鉄にも乗れない

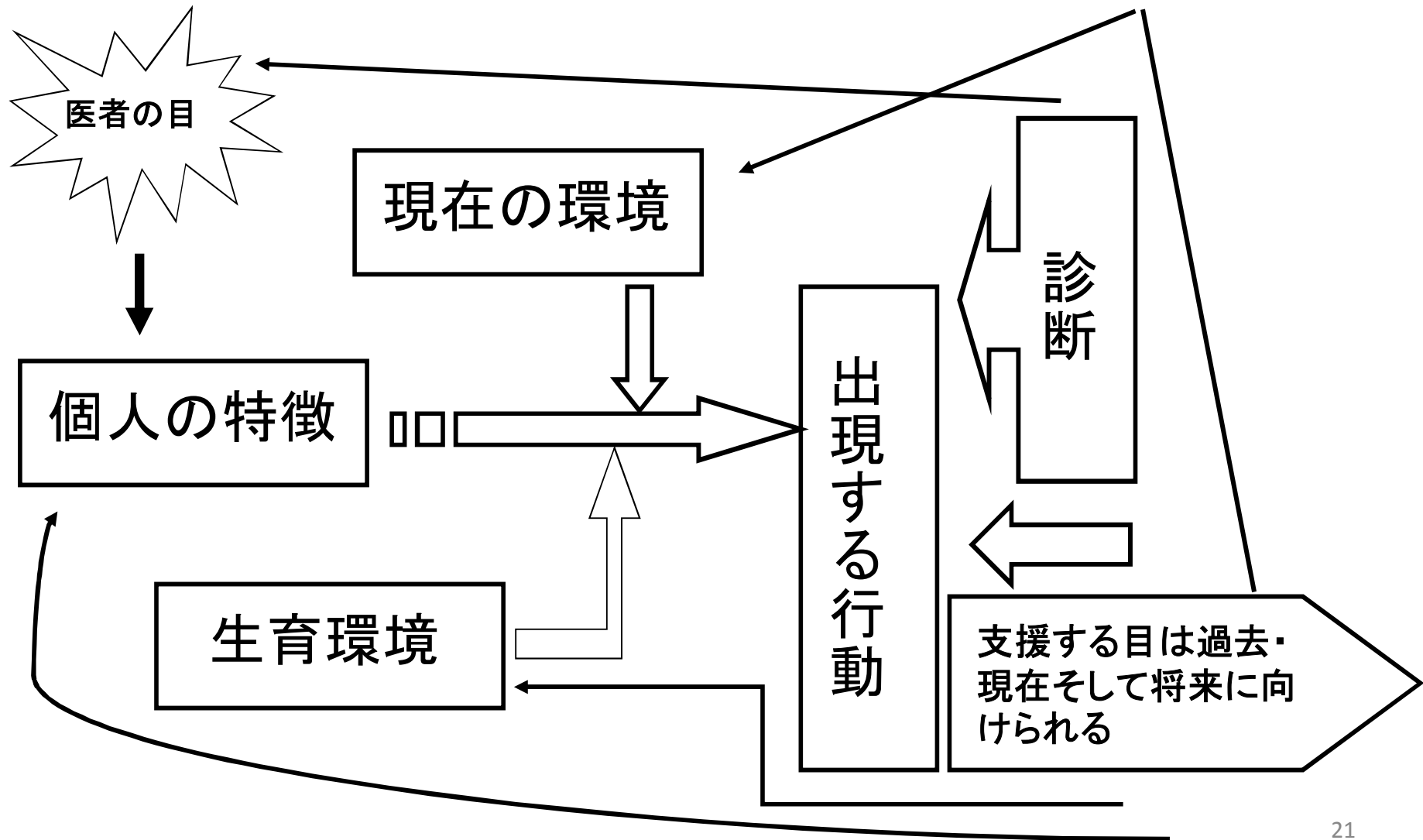
- ① きまりを決める: 人の顔は「顔を5秒見たらこれ(決まったもの)を5秒見る」のがきまりです
- ② きまりを書く(名前を付けて誰でもわかるように)
- ③ 家で練習する
- ④ 地下鉄でも練習する→実践する

きまりが定まり、本人が納得すれば、パターンの的にできるのが自閉症の特性。納得さえさせられればOK。

くれぐれも「じっと見ない」「あまり見ない」「相手が嫌がる見方をしない」などと言うだけでおしまいにならないようにしましょう。


診断→行動特徴の確認と除外診断

支援→行動特徴と要因確認、さらに将来に学ぶ姿勢も



ASD者が成人期に社会適応できる要件 自律スキルと社会スキルの確立

1. 自律スキル
 - 自己肯定感を持つ
 - 自分の限界を知る
2. 社会スキル
 - ルールを守る
 - 他者に相談できる



すべての人に通じるもの
であろう

(本田:2013年アーチル療育セミナーより)

発達障がい特性を持つことは いろいろな障害のハイリスク

- 二次障害（本人の特性に対する周囲の無理解・無配慮）
- 反応性精神障害（変化に弱く、不安を持ちやすく、誤解しやすい。慢性的にストレスの多い環境におかれやすい）

連携を考えるとき

- 10%はまれなケースではないが、90%を無視した支援は不可能(理解を広める工夫)
- 子どもの時の特徴はおとなになっても残る事が多い
- 穏やかな生活をするために、生活の障害を予防するという発想が必要
- 多様な発達特性を容認し、その人たちとコミュニケーションをとれるスキルを持つ人間の育成→妊婦からの子育て教育・学齢期からの多様性・子育て教育→結局は二次障害予防・マルチリトメント予防につながる→母子保健・教育との協働(新たな次元の連携へ)

私に対応法を考えるときの原則

1. わからないとできない→わかりやすくする配慮
2. やりたくないとやらない→やりたくなる配慮
3. できるようになる工夫と同時に、できない時の対処を考える→避難訓練の発想
4. 練習を忘れない→日々の生活は常に本番
5. 応援出来る形にしよう→対面から側面へ
6. 心情理解と行動変容→気持ちは理解し行動の変化を
7. 子どもの失敗は良いこと→失敗には特性が現れる
8. あなたの将来を大切に→ **時間をかけたほうがよい**

本日のまとめ

1. 発達障がいを見つけてあげる姿勢だけにならない
2. 目の前のひとと生活を共にするまなざしを
3. 周囲のひとと共に生きていることを忘れない
4. 家族もひとであり様々な特性を持っている
5. 支援者もひとであり様々な特性を持っている
6. みんなの目標は「穏やかな生活」で統一したい
7. その実現のためにそれぞれの特性を生かし、それぞれの方法で、それぞれの力を発揮しよう
8. 支援者が互いに支援する計画も忘れずに
9. 練習できる形にしよう
10. 楽しんで・がんばりすぎない・あきらめない
11. 私たちは「あなたたちの」応援団だ
12. 常時、団員を募集し続け、応援法を更新し続ける